

自彊進取

水口高等学校

水口高等学校は、平成20年に創立100周年を迎えた歴史のある学校です。

「創立100周年記念HP(ホームページ)」に掲載されている前校長西本良三先生の挨拶によりまず同校は『醇厚 中正 自彊 進取』という言葉が校訓にしていますが、これは旧制水口中学校の校歌に由来する言葉であるということです。

『醇厚』と『中正』を続けた『醇厚中正』という言葉は「偏りのない厚い心づかい」という意味で、他の旧制中学校などの校訓にもときどき見られる言葉です。

部旗に記されている『自彊』の文字は、儒教の重要教典である「易経」に出てくる言葉です。「易経」は今日でも行われている占い術の原点ですが、古代の占いは、政治の在り方など重大な決断をするときに行われるものであり、占い師が命がけで行いました。したがって、そのテキストの「易経」は古くからの占いの知恵を体系化したもので、東洋人の宇宙観にも影響を与えた深遠な内容の教典なのです。

その「易経」に“天行健 君子以自彊不息”（天行健やかなり 君子以て自らを彊(ツヨ)めて息(ヤス)まず）という文が出てきます。「天地は規則正しく健全に運行されている。人格が立派な人はたえず自らを励まして体や心を強めるよう努めねばならない」という意味です。水口高校はその文の『自彊』の2文字を取り入れておられるのです。

次に『進取』という言葉は、孔子の考えを発展させた孟子の言行録「孟子」などにも出てくる言葉で「決してしり込みすることなく、自ら進んで実践する」という意味です。

水口高校の前顧問の北川良弘先生と、現顧問熊瀬潔先生が共に指導をしておられるときに相談され、これらの言葉を使って部旗を作られたと聞いています。長い歴史のなかで磨かれてきた言葉に激励され、水口高校の部員は日夜稽古に励んでいることと思います。

「自彊不息」についての思い出

水口高校の歴史を物語る校訓の一つ「自彊」の元になった「自彊不息」について少し述べてみたい。この文字は八日市高校の前庭にある石碑に刻まれている。八日市高校の前身は神崎商業学校と八日市中学校の二つの学校に遡るが、この内の神崎商業学校の校庭に、大正5年5月「自彊不息」の石碑が建立された。五個荘出身の近江商人藤井彦四郎氏が当時の大実業家渋沢栄一翁に揮毫を依頼し石碑を造り、神崎商業学校に寄付したのである。神崎商業の校地には現在東近江市立五個荘中学校があり、五個荘中学校の前庭には今もこの石碑が厳然と建っている。私は五個荘中学校出身であり、中学生当時この言葉の深い意味を十分に理解していたとはいえないが、何か誇らしい気持ちでこの石碑を眺めていたことを思い出す。八日市高校には昭和63年、創立80周年の記念事業として、五個荘にある石碑を写した石碑が建立された。当時八日市高校の剣道部の顧問をしていた私は小林宣彦先生と相談しこの石碑の文字を写して竹刀袋を作ったのだが、今も八日市の部員が愛用してくれていることに深い感慨を持つ。

尚、私が校長で赴任した長浜高校の校長室に太田佐享氏の流麗な書の「自彊不息」の扁額があり、毎日この書を拝読することから仕事を始めていた。このようにして「自彊不息」という語は私にとって大切な座右の銘の一つとなっている。